

# 兩親から見た理想の保育者

—理想的保育者の資質に関する研究—(1)

頌栄短期大学 西 本 脩

## 問 題

幼稚園、保育所は、幼児の人格形式にとつては家庭に次いで重要な環境である。殊にその社会的、情緒的発達と云う点では、家庭よりも重要な意義を持つている。幼稚園、保育所に於て最も重要なものは遊具や教具ではなく保育者（幼稚園教諭、保育所保母を云う。以下同じ）である。保育者の幼児に及ぼす影響は極めて重要であり

その性格や人柄は直ちに幼児に反映する。我々は、幼児がある先生の組ではのび／＼と楽しそうにしているが、他の先生の組ではおじ／＼した態度になり、思うこともろ／＼云えないで、ちじかんでしまふと云う例を歴々見聞きしている。実に保育者こそは家庭に於ける親に次いで、幼児の行動や性格に最も大きな影響を与える力を持つものである。

幼児の為に良い環境を与え、最も望ましい保育を行う為には色々な条件が挙げられるけれども、それらの条件の中で最も重要なものは保育者である。たとえどんなにその幼稚園、保育所の自然的環境

がよく、その設備が完備されていたとしても、保育者が良くなければ、保育の効果を期待する事は出来ない。又之に反して、良い保育者を得ることが出来るならば、たとえさほど良い自然的環境に恵まれていなくとも、或はその設備が充分に整っていないくても、これらの欠点を補つて、立派な保育をする事が出来るのである。従つて良い保育を行う為には、良い保育者を得る事が何よりも先ず必要である。そこで一体良い保育者とはどんな保育者であるかと云う事、即ち理想的保育者の資質が問題になるのである。

理想的保育者の資質を決定する事は、保育者の選択をする側の者にとつては一つの評価の基準となり、これから保育者になろうとする者及び現に保育者として仕事にたずさわつてゐる者にとつては、自分が保育者になる事、又は保育者としての仕事を続ける事が正しいか否かと云う事に対する自己判断の標準となるであらう。又自分がより良い保育者となる為には、どの様な点に改善の必要があるかに就ての指示となり、目標ともなるであらう。

どんな保育者が良い保育者であるか、どんな保育者が悪い保育者であるか、又どうすれば保育者はより良い保育の効果を挙げる事が出来るかを教育心理学的立場から研究し、保育者の養成、保育者の選択、保育者の修養、保育者の活動の規準等に役立て様とするのがこの研究の目的である。

方法

理想的保育者の資質を決定する方法には宗像誠也氏が指摘される様に、保育の本質から出発する演繹的方法、保育の実際から出発する帰納的方法、古来歴史上に名を残している大教育者から得る歴史的方法等が挙げられる。こゝに報告しようとするものは、帰納的方法によるものである。理想的保育者とされる者の立場によつて必ずしも同じではない。即ち理想の保育者像は幼児の立場から、保育者自身の反省の立場から監督者たる園長、指導主事等の立場から、更に父兄の立場からも描かれなければならない。こゝには先ず父兄の見た理想の保育者像を問題とする。

調査の対象 この調査を実施した父兄は神戸市立U幼稚園、O幼稚園、H幼稚園、

私立K幼稚園、I幼稚園、尼崎市立A幼稚園、T幼稚園、西宮市私立N幼稚園の合計八園の園児の母親及び父親である。回答者を年齢別、職業別、及び学歴別に示すと、第1表、第2表及び第3表の如くなる。

これらの表で見ると夫々の分布状態から見て、やゝ農家が少な過ぎる嫌いはあるが、その他は大体一般幼稚園々児の両親を代表しているように思われる。従つてその回答の内容は一般父兄の意見を示しているものと考えてよいと思う。

調査項目 質問事項は左の二つである。  
 (一)、あなたはどんな幼稚園の先生が一ばんよいと思えますか。  
 (二)、あなたはどんな幼稚園

第1表 年齢別

年齢	20~29	30~39	40~49	50~59	不明	計
父	1	82	38	8	23	152
母	90	132	23	1	113	359
計	91	214	61	9	136	511

第2表 職業別

職業	専門的	事務的	商業	技術的	半技術的	勞働農業	無職	不明	計
人数	34	248	63	19	26	5	3	113	511

第3表 学歴別

	尋常科卒	高等科卒	中等学校		専門学校		大学		その他		不明	計
			中退	卒	中退	卒	中退	卒	中退	卒		
父	18	4	3	43	2	28	0	20	0	3	31	152
母	13	3	9	166	11	38	0	0	0	9	110	359

第4表 良い保育者の条件

回答者数		能力学識	人格性格	指 導	身体外貌	性年令	その他	計	
父	152名	実 数	29	278	198	17	8	29	559
		%	5.2	49.73	35.4	3.04	1.43	5.2	100.0
		一人当 り数	0.19	1.83	1.30	0.11	0.05	0.19	3.68
母	359名	実 数	92	713	486	98	17	76	1482
		%	6.21	48.1	32.8	6.61	1.15	5.13	100.0
		一人当 り数	0.24	1.98	1.87	0.28	0.04	0.21	4.12
計	511名	実 数	121	991	684	115	25	105	2041
		%	5.93	48.55	33.51	5.64	1.22	5.15	100.0
		一人当 り数	0.24	1.94	1.34	0.23	0.05	0.21	4.01

第5表 悪い保育者の条件

回答者数		能力学識	人格性格	指 導	身体外貌	性年令	その他	計	
父	107名	実 数	4	180	82	11	2	0	229
		%	1.75	56.8	35.8	4.81	0.87	0.0	100.0
		一人当 り数	0.04	1.22	0.77	0.10	0.02	0.0	2.15
母	249名	実 数	7	255	211	36	5	12	526
		%	1.33	48.48	40.1	6.85	0.95	2.29	100.0
		一人当 り数	0.33	1.02	0.85	0.14	0.02	0.05	2.11
計	356名	実 数	11	385	293	47	7	12	755
		%	1.43	50.99	38.85	6.22	0.93	1.59	100.0
		一人当 り数	0.03	1.08	0.82	0.13	0.02	0.03	2.11

の先生がばんよくない  
と思ひますか

尚答を暗示しない為  
に選 択式回答法をとらず自由記  
述法によることにした。回  
答者の記名は自由とし、他  
に回答者の年齢、性別、園  
児との続柄、学歴、家庭の  
職業を記入して貰つた。

資料の蒐集方法 園児の  
両親の意見を明らかにする  
為に、前記の各幼稚園を通  
じて、合計九百名の父兄に  
質問票を送つて回答を依頼  
したのであるが、回答され  
た質問票は記入不備の三六  
を除き、五一一名でその回  
答率は五六・八%である。

調査期間 昭和二十八年  
四月上旬—五月中旬

結果の概要

回答の中には、先生に対  
する希望等書いたものや記

入不備のものがあつたが、これらは除き、正しく記入されたもののみを選び集計した。両親が良い先生の条件及び良くない先生の条件として挙げたものは非常に多種多様であつて、之を如何に分類整理するかは可なり困難であつた。又回答には色々な組合せがあつて例えば「やさしい中にもきびしさのある」と云つたものは、その全体として一つの感じを現わすのであるが、この様な組合せを考慮すると無数の結果を示さねばならないので、一応すべてを分析し、大意の似たものを集めた。そして大雑把に分類して見ると左の六項目になるこの分類は勿論便宜的なものではあるが、然し之によつて大体の傾向はうかがわれる。

第6表 よい先生の条件 (能力学識に関するもの)

合 計	条 件										父	母	合計	順位	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
29	1	3	1	3	2	2	5	3	6	4					
92	2	1	5	4	8	11	9	14	16	22					
121	3	4	6	7	10	13	14	17	21	26					
	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1					

第7表 よくない先生の条件 (能力学識に関するもの)

合 計	条 件				父	母	合計	順位
	1	2	3	4				
4	0	1	2	1				
7	3	1	1	2				
11	3	2	3	3				

A、能力、学識に関するもの  
 B、人格、性格に関するもの  
 C、指導(保育態度)に関するもの  
 D、身体、外貌、言語に関するもの  
 E、性、年齢に関するもの  
 F、その他

今以上の分類に従つて、結果を簡単に概観して見よう。

一、良い先生の条件について  
 父兄が良い先生の条件として挙げたものの頻数及びその一人当りの平均頻数を示すと第4表の如くである。

これによつて見るならば、

1、全体を通じて見ると、全回答者五十一名が良い先生の条件として挙げたものは、全部で二〇四一で、一人平均四つずつ挙げたことになる。

2、その内容については「人格・性格に関する条件」が全体の四八・五%を占めて最も多く、次いで「指導関係」が三三・五%で第二



位、続いて「能力学識関係」「身体外貌関係」「性年齢関係」の順になつてゐる。

3、父親と母親を比較すると、一人当りの平均頻数はほぼ同じである。

4、その内容について見ると、父親では「人格、性格」に関する条件が最も多く、以下「指導関係」「能力、学識関係」「身体、外貌関係」「性、年齢関係」の順であるが、母親では、同じく「人格、性格関係」が首位を占め、以下「指導」「身体、外貌」「能力、学識」「性、年齢」の順になつてゐる。

5、特に注目すべきことは、その劣を比較して見た場合、「人格、性格」及び「指導」については父親の方が母親よりや、多く、「能力、学識」「身体外貌」については母親の方がより多く挙げていることである。即ち4の結果と考え合せて、母親の方が父親より身体外貌関係の条件を重視している事が分る。

二、良くない先生の条件について

「問二」の回答の中には、「問一」の反対」或は「前記の反対」等とあるだけで、その具体的内容については何も書かれていないものや無記入のものが多かつた。これらは除き、具体的に記入されたもののみを選んだ。その為に、「問一」の回答数に比べて大分少なくなつてゐる。良くない先生の条件として記入されたものの頻数及び一人当りの平均頻数を示せば第5表の如くなる。

この表を通して見ると

1、全体を通じて見た場合、全回答者三五六名が良くない先生の条件として挙げたものは、全部で七五五で、一人平均二・一二ずつ挙

第10表 よい先生の条件 (指導に関するもの)

合 計	条 件																父	母	合計	順位						
	子供の個性を見きわめ個別的指導をする	子供をよく理解する	子供と一緒に遊ぶ	子供の心になりきれる	世話がゆきとどく注意深い指導をする	父兄等と協力する	子供の性格を善導する	賞罰を正しくする	のびのびとした指導をする	よい習慣のしつけをする	子供をよく把握する	子供の健康に注意する	子供を集団生活になれさせる指導をする	子供の心を傷つけない	きびしすぎない、叱りすぎない	自発性を伸す、独立心を養う					子供に善悪を教える	子供相応の常識を教える	規則正しい生活を教える	その他(二四種)		
198	19	3	2	5	3	2	3	4	3	4	3	7	5	9	3	7	15	11	23	29	38	父				
486	41	2	4	3	5	7	7	6	7	6	14	10	12	13	21	20	28	40	58	65	117	母				
684	60	5	6	8	8	9	10	10	10	10	17	17	17	22	24	27	43	51	81	94	155	合計				
	20	19	17	17	16	12	12	12	12	9	9	9	8	7	6	5	4	3	2	1						

第11表 よくない先生の条件  
(指導に関するもの)

合 計	条 件											
	8	1	0	1	2	0	4	3	4	16	14	29
82	8	1	0	1	2	0	4	3	4	16	14	29
211	16	2	3	3	2	4	2	6	13	20	34	106
293	24	3	3	4	4	4	6	9	17	36	48	135
	10	10	7	7	7	6	5	4	3	2	1	

4、その内容についても、数値は異なるが、父親と母親が大体同じ傾向を示している。

2、その内容については、「人格性格関係」が全体の五一・〇%を占めて最も多く、「指導関係」が三八・九%で之に次ぎ、以下「身体外貌関係」「能力学識関係」「性年齢関係」の順になつてゐる。

3、父親と母親を比較すると、一人当りの平均条件数は殆ど同数である。

以上は良い先生の条件及び良くない先生の条件について概括的に見たのであるが、次にこの両条件について、各項目毎にその具体的内容を見ることとする。

第12表 よい先生の条件  
(身体外貌言語に関するもの)

合 計	条 件					
	0	0	1	3	4	9
17	0	0	1	3	4	9
98	2	4	2	12	15	63
115	2	4	3	15	19	72
	6	4	5	3	2	1

A、能力、学識に関する条件について

能力、学識に関する回答数は良い先生の条件としては全体の五・九三%、良くない先生の条件では全体の一・四六%であつて人格性格及び指導に関するものに比してずっと少ない。この項目に属する条件を、良い先生及び良くない先生について頻数の多いものから挙げると第6表及び第7表の通りである。これによると「教養の有無」「常識の有無」「研究的であるか否か」「子供をよく理解出来る能力の有無」等が主な条件として挙げられている。父兄は只保育上の知識や技術にすぐれているばかりでなく、もつと広い教養、常識をもつた先生、研究的な先生、子供に対する観察力のある先生を望んでいる。

B、人格、性格に関する条件について

第13表 よくない先生の条件  
(身体, 外貌, 言語)

合 計	条 件											
	健康でない	華美な服装をする	お化粧の濃い	言葉使いのきたない	方言を話す	服装のだらしない	不潔な	音痴	父	母	合計	順位
11	0	0	1	1	3	1	3	2	0	0	0	父
36	2	2	1	3	2	6	8	12	2	2	1	母
47	2	2	2	4	5	7	11	14	2	2	1	合計
	6	6	6	5	4	3	2	1				順位

六項目の中で最も多いこの項目に属する回答はよい先生の条件全体の四八・五%、良くない先生の全条件の五一・〇%を占め、何れも全条件の約半数を占めている。その内容は第8表及び第9表の如くである。

これによると「明朗な」先生、「やさしい」先生、「子供が好きで子供を愛する」先生「熱心な」先生が良いとされ、これに対して「感情的な先生、ヒステリックな先生」「短気な先生」「暗い感じ」の先生、「職業的でおさなりの保育しかない不熱心な」先生、「父兄からの贈物等にこだわる」先生、「冷い感じ」の先生、「子供を好かない先生」等は良くないとされている。

C、指導(保育態度)に関する条件について  
これは良い先生の条件、良くない先生の条件について、それぞれ全体の三三・五%、三八・九%を占め、人格性格に関する条件に次

第15表 よくない先生の条件  
(性年齢に関するものおよび其の他)

合 計	条 件									
	よく休む先生	信仰のない	その他(五種)	合 計	若い先生	年のいつた	父	母	合計	順位
0	0	0	0	2	0	2	0	0	2	父
12	5	3	4	5	2	3	5	2	3	母
12	5	3	4	7	2	5	5	2	5	合計
										順位

第14表 よい先生の条件  
(性年齢に関するもの)

合 計	条 件									
	未婚の先生	年いつた先生(年輩者)	女の先生	若い先生	父	母	合計	順位		
8	0	1	4	3	0	1	4	3	父	
17	2	5	3	7	2	5	3	7	母	
25	2	6	7	10	2	6	7	10	合計	
	4	3	2	1					順位	

いで多い。その内容は第10表及び第11表のようである。  
この項目の中で最も多いのは「公平、不公平」と云う事である。「すべての子供に公平無私な態度で接する」先生を良いとする者は一五五名で、これだけで「能力学識」「身体、外貌」「性年齢」の各項目の何れよりも多くなっている。如何に父兄達が先生の「公平無私な態度」を求めているかが、これによつても明らかであろう。



第16表 よい先生の条件  
(その他)

条件	父	母	合計	順位
経験年数の多い先生	8	20	28	2
自分の子供を育てたことのある先生	9	20	29	1
信仰をもつた	5	14	19	3
家庭のよい	4	10	14	4
園児と同年令の子供をもつ母	1	3	4	5
小学校の経験者	0	2	2	6
その他(五種)	1	4	5	
合計	29	76	105	

その他「子供の個性を見きわめて個別的に指導する」先生、「子供をよく理解する」先生が良いとされ、「父兄の地位等で子供を区別」したり、「顔や感情でえこひいきをする」先生、「子供を自分の型にはめようとする」先生、「子供を理解しない」先生、「ひどく叱つたり、いつも口やかましく言う」先生は不適當とされている。D、身体、外貌、言語に関する条件について

この項目に入れられる条件は、よい先生の全条件の五・六四％、良くない先生の全条件の六・二三％で、全体として余り多くはない。その内容は第12表及び第13表に示す通りである。「健康な」先生、「服装などがさつぱりして人に好感を与える」先生、「言葉使いの正しい、美しい、おだやかな」先生が好まれているのに対し、「体の丈夫でない」先生「服装が派手すぎたり、或はだらしなかつたり、お化粧が濃すぎる」先生、「言葉使いのきたない」先生は嫌われている。

E、性、年齢に関する条件について

この項目に属する条件は全体的に見れば極く僅かであり、又その内容も第14表及び第15表に示されている様に、まぢまぢである。「若い先生」を良いとする者も良くないとする者もあると云う様に、従つて年齢に関しては、父兄は若い先生を望むか年いつた先生を望むかどちらとも云えない。性については「女の先生」を良いとしたものはいたが、「男の先生」を挙げた者はなかつた。

F、その他(第15表、第16表)

これについては「育児の経験がある母親」としての先生、「経験年数の多い」先生、「信仰を持った」先生、「よい家庭」の先生等が良いとされ、「よく休む」先生「信仰のない」先生は感心しないとされている。

要約

- 以上の結果を要約すると、
- (1)、全般を通じて見た場合、父親と母親とは大体同じ意見を持つている。故に両者を一括して、両親の意見とする事が出来る。
  - (2)、両親は良い先生の条件としても、良くない先生の条件としても共に、身体・外貌・性・年齢の様な外面的、表面的なものよりも、明朗さ、やさしさ、愛情、熱心さ等の内面的な人格・性格的な条件を最も重要視している。
  - (3)、人格、性格的な条件と共に、保育に対する態度を重く見ている。中でも、子供達を公平に扱っているかどうかと云う事には非常に注意を払っている。遊戯会等の行事は云うに及ばず、日常の保育に於

でも保育者は余程この点注意をしなければならぬ。

(4)、各項目共、その項目に属する条件を頻数の多いものから挙げると、良い保育者の条件と良くない保育者の条件とが順位に於てほぼ一致する。即ち良い保育者の条件として重視されているものは、その逆が良くない保育者の条件として矢張り重視されている。

(5)、母親の方が父親よりも身体外貌関係の外面的条件を幾分重要視している。

(6)、両親は唯保育上の知識や技術にすぐれた保育者よりも、もつと広い教養、常識を持つた保育者を望んでいる。

(7)、それと共に、ピアノが上手、絵が上手と云う様な技術的能力に秀でた保育者より、人格円満、明朗と云う様な精神的に健康な保育者を望んでいる。保育者は精神的健康を保つ様努力しなければならぬ。

8、保育者の年齢に関しては意見がまちまちである。結局若いか年いつているかと云うことはさほど重要な条件ではなく、もつと他の条件(例えば人格、性格、保育態度)によつて、その保育者の良し悪しが決まるのである。

## 結 語

この度の調査に於ては、園児の父兄の立場から見た良い保育者の条件、及び良くない保育者の条件について考察したのであるが、理想的な保育者の資質を決定するのに、非常に多くの示唆を与えられた。前にも述べた通り理想的保育者の資質を決定する方法は色々あるが、何れも避けることの出来ない欠点を持つていたので、一つの

方法のみによつて一方的に決める事は危険である。我々はその何れの方法にも偏せず、それぞれの立場から得られた資料を参考として総合的に考察しなければならない。こゝには唯その為の一資料を提供したに過ぎないのであつて、両親の意見から直ちに理想的保育者の資質を云々することは差しひかえない。今後更に他の方法によつても、この研究を続けたいと思つてゐる。

我々は勿論完全な理想の保育者になる事は出来ないであらう。然し幼児の幸福を願うものとしては、我々は理想の保育者にならうとして一歩でも之に近づく努力、修養を怠つてはならないであらう。

☆この研究の資料を提供された各幼稚園の父兄各位に深甚なる謝意を表します。お子様の御幸福を心からお祈りいたします。仲介の勞をとられました各幼稚園の園長、教諭諸兄姉に厚く御礼申し上げます。

### (参考文献)

- 1、西本脩 保育者の精神衛生(一)——保育者の悩みについての調査——「幼児の教育」第五十一巻第九号
- 2、宗像誠也 教師の心理 岩波講座「教育学」第二冊
- 3、石谷信保 理想の教師 岩波講座「教育学」第二冊